



2025年度通常社員総会が無事終了しました。

今年度も無事に前年度報告などを含む通常社員総会が無事に終了しました。

法人設立から21期（1期は半年ですが）の決算報告はホームページに掲載しています。興味のある方はご覧になってください。

また、今年は社会研修も行い、お互いの事業所で実施した支援事例を発表しスキルアップを図りました。無事に佐久法人本部、たんときッズあおき共に22期目がスタートしました。今年度は、たんときッズあおきも6年目を迎え、利用されているみなさんのライフステージの変化が多く、キッズでも新たな対応を求められてきています。今後もみなさんと一緒に歩んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



コラム ～ 自閉スペクトラム支援の最先端、アメリカの研修を受けてみた ～

ずっと受けたいと思いながら、なかなかチャンスがなくやっと今年、受けることができました。TEACCH—ファンダメンタル・トレーニングという研修7日間が実施されました。

自閉スペクトラム症の方の支援の中に TEACCH（ティーチ）プログラムというのがあり、たんの支援も、この TEACCH プログラムや応用行動分析の考え方を中心に組み立てられているのですが、研修の開催場所が研修を主催している会社が佐賀県ということもあって、ほとんどが佐賀県で実施されているため、長野県から参加するにはとてもハードルが高いのです。

今回、オンラインで実施されるということで、思い切って応募してみました。

講師陣がアメリカのノースカロライナ州ということもあって、時差の都合もあり朝5時（ノースカロライナは夕方）からという早朝の研修でしたがとても勉強になりました。

普段から使っている手法や考え方の根拠や、最新の考え方などを日本のトレーナーの先生達にサポートしていただきながらの7日間は、しんどかったですが必ず役立てようと思いました。

さらに、2月は2泊3日で京都で開催された TEACCH コラボレーションセミナーにも参加していたのですが、そこでは日本での実践事例の発表だけでなく、アメリカの最新手法の説明などがあり、これもとても参考になりました。

これで、すべてがわかるわけでもなく、魔法使いのように対応できるわけではないですが、この合わせて10日間でまた1つ考え方の引き出しが増えた気がします。

これからも療育（支援）の中で、積極的に取り入れていきたいと思っております

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たんときッズあおきまで、ご相談いただければ対応いたします。

たんときッズあおき（NPO法人たん。）

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん



発達障がい と 衝動性 の密接な関係

みなさんは「衝動性」という言葉を聞いたことはありますか？
多くの方が聞いたことがありイメージがつく方がいらっしゃると思いますが、あまりいいイメージを持っている方はいないかもしれません。発達障がいの方が、衝動性が影響している行動をまずは紹介したいと思います。
まずは、衝動性とはどういうことでしょうか？
簡単に説明すると、「思ったことを口に出してしまう、行動してしまう」特徴が一番、わかりやすい部分になるか
と思います。これは発達障がいの人だけに限らず、私達でも「つい衝動的に・・・」と行動してしまったことがあるのではないのでしょうか。かくいう私も過去を思い出せば衝動的に行動してしまったことは多々あります。それが全て悪い結果になるということではなく、良いこともあります。ただ、発達障がいの方たちから見える衝動的な行動は、多くの場合、良い結果にならないことがあります。

メリット	デメリット
・行動力、実行力がある ・変化への対応が早い ・決断が早い	・人間関係のトラブルが起きやすい ・感情のコントロールが難しい ・依存症になりやすい ・自己コントロールが難しい

メリットが生かされる環境であっても、結果的にうまく行かないなんて事もあるこの性分とどう付き合っていくのがいいのでしょうか。衝動性というのは、そもそも誰にでも持ち合わせている特徴の1つですが、発達障がいの方たちの一部の方が起こす行動の中で衝動性が関連しトラブルになってしまう事が多いのはなぜでしょうか。これは、社会性との関連が多く関係しています。

一部の方は、周囲の状況を汲み取ったり、自分が今、どういう行動をするのが望ましいのかを判断する事が苦手な方がいます。特にそのような行動を取ってしまう方に、衝動的に行動する結果、トラブルに発展してしまいがちです。



例えば、普段からメガネを使っているが、ふとした時に見当たらなくなってしまったという状況の時、みなさんなら最初に何を考えますか？

「あれ？どこにおいたかな？」と自分が行動を振り返り思い出すという行動を取ります。
この時、誰かが盗んだとか・持っていってしまったという考えは心のどこかにあるかもしれ

ませんが、まず最初は自分を疑うことから始めます。これは、社会性が身につけている証明でもあります。社会性が育っていると人を信じること、責任感、協調性などが生まれ人を信じる気持ちが育ってきます。結果的に人を疑う前に自分を疑うという行動が生まれてきます。

発達障がいの方は、社会性が育ちにくいという特徴があります。だからといって、まったく人を信じないというわけではないのですが、自分の経験の中から学習していくということが苦手なので、自然に身につく事が身につくにくい事が影響しています。

今回のメガネの一件はどうでしょう？社会性が身につけていない場合、心に生まれるのが無くしてしまったという気持ちから、取られてしまった（盗まれた）という気持ちに発展する可能性が高くなります。

何度か同じような経験をしていくことで、自分を疑う前に盗られた？とすぐに発想してしまう。結果的に、何も疑うことなく近くにいる人に「盗っただろ！」と疑いをかけてしまう行動になることがあります。

当然、疑われた人が盗ったわけではないのでトラブルになりますよね。その後、メガネが見つかった時、今度はその疑いを詫びることなく、気持ちは次に移ってしまいます。これがさらなるトラブルの火種になる事があります。そして、この経験を記憶（学習）すればいいのですが、記憶力の苦手さが苦手な方はこれを学習する前に忘れてしまう。そうです、結果的に繰り返す原因になります。社会性や記憶のことはまた後日、触れることにして、今回はこの時の行動についてですが、人を疑ってしまったとき『まてよ』と考える前に行動に移してしまう。

楽しいことや好きなことがあると、すぐに行動したくなってしまい、今やるべきことを忘れてしまう。などの行動が起きやすい、これが衝動性という言葉で表現されています。

これを抑えるためにどうしたらいいのか？発達障がいの方は、学習する流れが健常の方と違う部分があり、経験をすぐに学習していくこと、失敗した時に、次につなげていくために工夫を記憶するということが苦手な方がいるため、改善していくためには何度も練習をしたり経験を繰り返し学習していく時間がかかるため、「こいつは駄目だ」とか「全然、わかってくれない」という評価につながってしまったり、すぐに手が出ると思われてしまいます。このような特徴がある方ということを知り、周囲が理解し、大変なこともあるかもしれませんが、伝えていく事で、この衝動性は改善していく可能性がありますので、諦めず関わりながら支えていただきたいと思います。